

## 国語科学習指導案

日 時	平成 23 年 11 月 11 日 1 校時
会 場	3 年 4 組教室 (北校舎 3 階)
生 徒	3 年 4 組 (男 21 名女 16 名計 37 名)
授業者	及川 智子

- 1 単元名 古典和歌を現代詩に書きかえよう  
学習材名 「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」

### 2 単元について

#### (1) 学習者観

- ・古典単元として、1年で「いろは歌」「竹取物語」、2年で「徒然草」「平家物語」を学習している。仮名遣いや古語の解釈など古典の基礎知識と合わせ、古人の心にふれたり、古文に書かれている情景や場面を読み取ったりすることで、関心を高めた生徒もいた。文語文に対して抵抗を感じ、理解が不十分な生徒も多かったが、音読を重ねることで文語独特のリズムに慣れ、暗唱を楽しむ様子も見られた。
- ・2年次の「短歌」を扱う単元で近・現代短歌を学習し、また、3年では「俳句」の単元で情景や心情を想像して鑑賞文を書いたり、アンソロジーを作ったりする学習を行い、凝縮された言葉の中で、さまざまに想像を広げ、鑑賞することを楽しさを見いだした生徒が多くいた。
- ・3年の「朗読劇場」という単元では、詩における表現技法の効果や詩の構成など、詩の基礎知識を復習しながら、詩を実際に作ったり、グループで朗読会をしたりしながら、さまざまな詩にふれた。
- ・授業では4人グループやコの字隊形での学び合いを中心に進めてきた。分からないところを聞き合ったり他人の意見と自分の意見を交流させようとしたりする姿勢が自然なものになってきた。

#### (2) 学習材観

- ・本単元は、1・2年の「音読を楽しもう」の次の教材である。古典の言葉の響きを楽しむとともに、凝縮された31音の中に込められた、日本人の伝統的な文学観についてふれるには好材であると考えた。また、日本の伝統文化にふれ、その良さを味わい、価値を再認識することにも意義があると思われる。
- ・本単元では、和歌の世界をより深く理解するために多読できるよう配慮し、教科書以外の和歌にもふれることにした。その際、「その一首でその和歌集の特徴が考えられるようなもの」、「教科書で採択されやすかったり、有名で何度か目にしたことがあるようななじみのあるもの」、「生徒が共感をもったり、興味を抱いたりできるようなもの」を観点に考え、ワークや資料総覧に掲載されている和歌にも目を向けさせたい。

#### (3) 学習指導観

- ・今回の学習では、それぞれの和歌集の特徴や和歌の表現技法などの基礎的事項は簡単におさえる程度にする。学習者が和歌の世界にひたれるよう、さまざまな和歌にふれさせ、その後テーマを自分で決めていくつかの和歌を選ばせる。そして、現代詩に書き換えることで、さらに和歌への理解が深まるよう意図した。また、各自作った詩を交流し合う中で、自分の表現にもいかせるよう指導したい。
- ・詩にリライトする際、現代語訳だけを手がかりにさせるのではなく、ワークや資料総覧などを活用させながら、歴史的背景や当時の生活、昔の人の思いなどにもふれ、その作品の世界を読み味わえる力をつけさせたい。今回の学習で、「古典」は、遠い昔の現代人にはよくわからない話ではなく、さらに身近なものとして考えさせる契機としたい。

#### (4) 研究との関わり

- ・音読や詩の創作、検討会などは4人グループの「協同」の学びによって行う。
- ・本時の「共有の課題」は、「テーマを決めて、ミニアンソロジーを作ること」に設定した。そして、その中の1つの和歌を詩に書きかえるまでを「ジャンプの課題」とした。
- ・さまざまなテーマの和歌を鑑賞した後、詩に書き換えるために和歌を一つずつ選ぶ活動を行うため、和歌をさらにじっくり読む活動ができるであろうし、また、出来上がった詩を検討する際も和歌と詩

を読み比べる活動が生まれるであろう。学習者が課題追究するために、じっくりとテキスト（和歌）と関わる学びを実現したい。

- ・本單元では、現代詩を作る学習活動を「表現」として位置づけ、音読や作成の過程での協同的な学びや作った詩を検討し合う学習活動を「共有」として位置づける。

### 3 単元の目標と評価規準

観点	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
目標	作品独自の世界に関心を持ち、自分の言葉で読み味わおうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むことができる。</li> <li>・文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつことができる。</li> </ul>	歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむことができる。
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の和歌を繰り返し音読して、そのリズムや表現の仕方を味わい、情景や心情を描こうとする。</li> <li>・古典の和歌の世界を、自分たちの感覚と比べながら現代詩に書きかえようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの和歌の句切れや表現技法などをおさえて音読するとともに、情景や心情をつかみ、それを詩に表現している。</li> <li>・一つ和歌を選んで、現代の自分たちの感覚と比べながら、作品の世界が伝わるように気をつけて、現代詩に書きかえている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの和歌を読み、そこからテーマを設定して、自分なりのミニアンソロジーを作成している。</li> </ul>
言語活動	古典の韻文を現代詩に書き換える。		

### 4 学習指導計画（全5時間）

- (1) 学習の見通しもつ。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（1時間）
  - ・教科書の和歌を音読し、3つの和歌集についてまとめる。
- (2) さまざまな和歌を読み味わい、選んだ和歌を現代詩に書き換える。・・・・・・・・（3時間）
  - ・さまざまな和歌を読み味わう。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
  - ・詩の書き方の例を参考にしながら、全員が同じ和歌を詩に書き換える。・・・・・・・・1
  - ・ミニアンソロジーを作成し、その中から好きな作品を1つ選んで詩に書き換える。・・・・・・・・1【本時】
- (3) できた作品を検討し合い、学習のまとめを行う。・・・・・・・・・・・・・・・・（1時間）
  - ・学習したことをふり振り返りながら、「和歌」とは何かを自分なりにまとめる。・・・・・・・・1

5 本時の指導 (4/5)

(1) 目標

作品の世界が伝わるよう意識しながら、現代詩に書きかえることができる。

(2) 展開

学習活動	学習内容	指導のための工夫	評価の視点・方法
<p><b>【既習の学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年では「竹取物語」、2年では「枕草子」「徒然草」「平家物語」を学習し、昔の人々の思いやさまざまな時代の古典の世界観にふれた。</li> <li>・短歌・俳句の単元で、作品に書かれている情景を想像しながら読み深める学習を行った。</li> <li>・前時は、1つの和歌に着目させ、パターンを与えながら、詩を作成させた。</li> </ul>			
<p>1 前時の活動をふり返る。(6分)</p> <p>2 本時の共有の課題を把握する。</p>	<p>○完成した詩の検討</p>	<p>○詩と和歌の表現にふれて評価させる。</p>	
<p>テーマを決めて、ミニアンソロジーを作ろう。</p>			
<p>3 共有の課題を追究する。(14分)</p> <p>4 本時のジャンプの課題を把握する。</p>	<p>○テーマに沿って、5つの和歌を選択</p>		
<p>選んだ中から1つ選び、その作品の世界を考えて詩を作ってみよう。</p>			
<p>5 ジャンプの課題を追究する。(25分)</p> <p>①詩にするもの一つずつ選ぶ。</p> <p>②作品の世界を意識して詩に書き変える。</p> <p>6 学習をふりかえる。(3分)</p> <p>7 次時の見通しを持つ。(2分)</p>	<p>〈おさえない内容〉</p> <p>○ 心景、情景、テーマ</p> <p>※作品の世界</p> <p>例 ストレートな感情表現、繊細で優美な表現、内面的な奥深い美意識</p> <p>○書きかえてみての感想の発表</p> <p>○できた詩を全体で検討</p>	<p>○モデルを示す</p> <p>〔条件〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で使ったパターンは使わない。</li> <li>・原文をそのまま羅列しない。</li> </ul>	<p>〔観点〕読む能力</p> <p>一つの和歌を選んで、作品のイメージを意識して詩を書いている。</p> <p>(シートの記述内容)</p> <p>A：心情や情景の明確さ、作品世界の理解度、詩の表現の巧みさ。</p>
<p><b>【次時や別単元での学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時：作成した詩をグループ・全体で検討、交流させる。そして、和歌とはどんなものであるか、自分なりのとらえをまとめる。</li> <li>・別単元での学習：「読むこと」単元では、学習材として「故郷」を用い、表現の仕方や作品の構成などについて、その特徴を考え、評価させる活動を行う。</li> </ul>			

【構想】

時間	学習活動	指導の留意点
	(1) 万葉9, 古今4, 新古今4の音読	・ 4人グループで読み、1つずつを読む。
1次 (1)	(2) 単元の見通し ※「和歌へのいざない」でまとめることを伝える ①まえがき ②三大和歌集の簡単なまとめ ③アンソロジー ベスト5 ④詩(リライト) ⑤あとがき(和歌とは～) ○三大和歌集の特徴を簡単におさえさせる。	・
2次 (3)	(3～4) 数種を読み込む。 ① 黙読する。 ② 好きな作品を1つ選んで、その世界観を詩に表現する。 〔条件〕作者の立場で書く。  (5)本時 ①完成した詩を検討し合う。  ②共有課題 テーマを決めて、ミニアンソロジー(5作)選ぼう。 ③ジャンプ課題 その中から一作品を選び、詩を作ってみよう。	ワーク、資料集(42)、教科書(17)から  ○〔手立て〕パターンを与える。 a : よこはま たそがれ(体言の羅列) b : 各連が同じフレーズで始まる(リフレイン) c : 会話(心の声でも可)中心(会話式) d : フリー  〔観点〕 ・ 作品の世界観(心情や情景)が表現されているか。  ※ 前時で使ったパターンは不可。 ※ 原文をそのまま表現は不可。
3次 (1)	(6) 詩会 ・ 検討会 ・ 「和歌へのいざない」を完成させる。 あとがきを(和歌とは～何だという形で)まとめさせる。	